

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 3 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503940		
法人名	医療法人 永和会		
事業所名	グループホームわらえ		
所在地	広島県福山市金江町553番地 (電話) 084-930-1463		
自己評価作成日	平成24年1月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503940&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年2月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者と一緒に毎日食材を買いにスーパーに行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームわらえ（以下、ホーム）は、ホームから松永湾が展望できる景観に恵まれる自然に囲まれた環境にあり、季節の変化を体感しながら暮らすことができます。 医療法人を母体とするホームなので、医療連携体制が整い、入居者、家族の安心感があります。法人内保育所の園児との交流が定期的に行われています。普段はあまり感情を表に出すことのない入居者から満面の笑顔が見られるなど、園児とのふれあいが生活の意欲につながっています。職員間で報告・連絡・相談を徹底するよう努められ、情報共有、意識統一し、全員でケアに取り組むことをめざしておられます。職員間の連携を大切にすることで、働きやすい職場環境を整えられ、職員と入居者が一緒に楽しく過ごされています。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの理念を玄関、事務所内に掲げ会議時、個々の理念への理解が深まるよう話し合っている。	法人グループの理念をもとにホーム独自の理念を掲げられています。理念をもとに、自らが入居したいホームについて職員全員で話し合い、「共に楽しむ」「共に感じ」「共に動き」という「三つの共に」をつくり、行動の指針とされています。「三つの共に」に短く分かりやすい言葉を使うなど、職員が日頃から意識できるよう工夫されており、日々の実践につながられています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催や、地域行事への参加、新聞の発行、来訪家族への話などにより理解が深まるよう取り組んでいる。	敬老会、とんど、祭りなどの地域行事に参加したり、地区の草刈りに職員が参加したり、地域にとけ込む努力をしておられます。法人主催の夏祭りに、地域の人の参加を呼びかける等、様々な機会を得て頻繁に交流されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護教室への参加、認知症への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ご家族、地域の方、職員の参加で取り組んでいること、これから取り組むことなどを話し合い 出された意見を会議で報告し、サービスの向上に向けて活用している。	家族代表、入居者、地域包括支援センター、町内会、公民館など、多数のメンバーの参加を得て2か月ごとに開催されています。会議では、ホームの活動報告をしたり、地域行事等の情報を収集されたりしています。家族から自宅での服薬管理に関する質問が出たり、誕生日会の企画について提案が出たり、活発な意見交換、共有の場となっています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町での研修等に積極的に参加、依頼を受けた介護教室で話しをするなど、市町との連携により質が向上されるよう取り組んでいる。	日常的に市との連携に努め、ホーム職員が市主催の「介護教室」や「認知症サポーター養成講座」の講師を引き受けることもあります。地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり、福山市の地域密着型サービス事業所で立ちあげた「タウン・ソーシャルワーク連絡会」へ参加したり、市の他事業所との連携を持たれています。	現在の取り組みを継続するとともに、運営推進会議に、市担当者の参加が困難な場合にも、議事録を持参するなど、情報交換、共有の機会として会議を活用し、さらに市担当者との連携を図られることを期待します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止についての研修への参加、伝達講習、話し合いにより職員が理解しケアしている。	職員は、身体拘束の具体的な行為について正しく理解し、身体拘束のないケアに努められています。また、身体拘束の弊害について、研修を通じて職員に周知徹底されています。外出にさりげなく同行するなど、本人の思いを探り、自由に活動できるように配慮されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人としての勉強会への参加、外部研修への参加などたくさんの機会が持たれており、職員間での話し合い、勉強会で虐待に対する意識向上が話合われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体の勉強会への参加、外部研修への積極的な参加の勧めもあり、学ぶ機会も多く用意されている。また、御家族の依頼により助言等の支援もおこなわれている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、内容について十分説明させていただき、理解していただければ重要事項説明書に記名していただき、その後の疑問についてもその都度説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置や、職員と入居者のより良い人間関係を築き、苦情を言い易い場を作っていき意見を求め取り組んでいる。	玄関に意見箱を設置するなど、家族の意見や思いを積極的に汲み取る仕組みがあります。また、日頃から入居者や家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時に意見を直接聞けるよう努められています。家族から出された意見や要望、相談は職員間で共有するとともに、運営に反映できるよう話合われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回グループホーム全体の会議と各ユニットの会議も月1回ずつ開催されており、出された意見について検討し、会議録に記入、全体に周知できるようにしている。	ユニット会議で出し合った意見をユニット間で共有し、運営に反映できるよう取り組まれています。また、チャレンジシートを活用し、管理者が職員の目標や思いを把握するとともに、日頃から意見を言えるような雰囲気づくりを心がけておられます。なお、職員からの意見は、ケアに関する内容が中心となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの概要、給与規定が開示され、職員個々の目標設定が分かりやすくなされている。又、研修案内などで広く勉強の機会を得ることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に研修参加が求められており、職員個々の研修参加希望、研修案内などで必要に応じた職員への声掛けがおこなわれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域での交流会へ参加し、交流を持ち、情報の共有や意見交換に努めサービス向上に役立てている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申し込み時に家族への聞き取りをはじめ、入居決定後に来居の機会を作り、ご本人の想いを受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期のグループホーム見学時から、ご本人の不安や家族の想いを受け止めるよう話を聞く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報収集を職員全体が共有し、入居に向けた対応を考え、必要であれば、医療機関、デイケアなどの利用、リハビリなども検討されるなどの対応がとられている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ゆったりした対話の時間を持つことで、入居者本人への理解をより深め、職員が生活の知恵を学ぶなど頼りになる人として接し、お互いを支えあう関係を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月発行のグループホーム新聞と共に、一人ひとりの1ヶ月の様子を担当者が記入し送付するなど、入居者の日々を感じていただく努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容室、歯科医院などの利用を取り入れ、一人ひとりの今までの生活を大事にした取組みをしている。	法人の施設利用者と日常的に行き来がある入居者もいます。また、入居前から通っていた美容院や歯科医院へ同行するなど、馴染みの関係の継続を支援されています。ドライブや買い物の途中で自宅に立ち寄るなど、これまでの本人の暮らしを断ち切らないように配慮されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者間の人間関係を大事にし、外出等行事の際、隣の席に座るなど配慮している。入居者ご本人の状態についても他入居者に理解していただけるような声掛けを行い、関わりを持っていただけるような努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了時にも、相談等の来居を待っていると伝え、入居者の様子についても伺うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や思いを語ることが出来る時間や人間関係を作り、その人にとって何を必要としているかを職員が考えるようにしている。	センター方式（認知症の人のためのケアマネジメント様式）を活用し、入居者一人ひとりの生活背景や趣味、嗜好などの把握に努められています。また、日頃の何気ない言動を記録するとともに、職員間で共有し、日々のケアにつなげられ、常に本人本位の暮らしとなるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者一人ひとりの情報がカルテに綴じてあり、職員誰もが見ることができ、また、新しい情報として得たことも個人日誌に記入され、職員間で共有されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時経による個人日誌を生かし、入居者一人ひとりの1日の状態を職員が共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個人日誌やセンター方式でのアセスメントシートを利用し、家族の意見」も聞き、カンファレンスや毎月の各ユニットでの会議で話し合いをし、介護計画を作成している。	職員全員で定期的に見直し、急変時や状態の変化にも迅速に対応されています。また、日々の関わりの中で、入居者や家族の思いを的確に汲み取り、普段と異なった言動や少しの変化に気づくよう努められ、現状に即した介護計画となるように取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人日誌に声の掛け方やそれに対する反応を記入することとし、そのことでの対応職員の思い、反省を記入する事となっており、全ての職員が見ることもでき、それを基とした話し合いがされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	体調の変化や入居以前の情報により、他事業所のリハビリ利用やデイケア利用が行われている。 各事業所で行われる行事にも積極的に参加し、広い地域での関わりを持てるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を活用できるところまで地域に入り込めていない。 地域出身の方がおられるので、その方を中心にして地域への関わりを持っていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	グループホームとしてのかかりつけ医との連携とともに本来のかかりつけ医受診を希望されれば意向に添えるよう対応している。	入居時に入居者、家族の希望するかかりつけ医を把握されています。かかりつけ医を変更する場合は、家族に同意を得られています。母体法人との医療連携体制が整い、容態に応じて適切な対応ができる体制がつくられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度グループホーム担当看護師同席で往診があり、より細かな診断治療を受けることが出来る。 職場内の看護師には各ユニットの入居者の状態が把握できるような勤務体制を設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のための協力病院もあり、情報交換が行われている。出来る限り面会に行くなど起居後へ繋ぐ対応がとられている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期等希望は伺っているが、現状医療機関との連携の中ではっきりとした結論が出ていない。	法人の重度化指針を入居時に家族等に説明し、共有されています。入居者、家族の思いを大切にされ、医師や関係者と連携し、チームで支援されています。終末期については、必要な治療を受けるため、医療機関へ入院される入居者もおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者一人ひとりを知ることで、利用者にかかる事態に対応できるよう職員間での話し合いが持たれている。事故発生時のマニュアル作成や、訓練も行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練や連携施設との話し合いがされている。	避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけ、実際に参加が得られています。今後、運営推進会議のメンバーへの参加呼びかけや、夜間を想定した訓練の実施を計画しておられます。なお、スプリンクラーの設置は完了しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する礼を失わない声掛けや対応に努めている。	職員が入居者の居室へ入る際は、ノックを徹底するなど、一人ひとりの人格を尊重したケアを行っておられます。日頃から職員間で確認し合い、入居者への声かけや職員間の会話の内容にも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とゆったりしたコミュニケーションを持つことで、利用者一人ひとりの思いを引き出し、理解できる声掛けをすることで利用者の理解や分かってもらえる満足感を持てる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活の中で日課に縛られることなく利用者の思いに添った外出や散歩、家事などの声掛けを行い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者と一緒に買い物に出かけ好まれる衣類を購入したり、起床時の衣類も本人の希望を伺いながら援助している。美容院も希望に応じ外部を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物と一緒にいき食べたいもの、季節を感じながら食材を決めたり、皮むきや野菜切り、調理、盛り付け、配膳、下膳などできることを手伝っていただけるよう支援している。	冷蔵庫の中身や入居者の希望で献立を決め、旬の食材を使用した家庭的な食事が提供されています。入居者と一諸に買い物に行ったり、下ごしらえや調理、盛り付けを行ったり、食事を楽しむための工夫が行われています。また、配膳や下膳、机拭きなど、入居者ができることを積極的に手伝われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、無理なく満足した食事ができるよう努めている。食事おやつ時の水分摂取はもちろん、1回量が多量でない方は分散して勧めたり、夜間いつでも飲んでいただけるよう準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け行い洗面所で歯磨きをしていただいている。自力で出来ない利用者に対しては職員が誘導し口腔ケア行っている。義歯装着の利用者は曜日を決めポリデントにつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人日誌に排泄欄を設け、必要に応じて排泄パターン、習慣を職員共通の情報として支援している。	個別のケース記録で排泄状況や水分摂取量を把握し，さり気ない声かけやトイレ誘導をされています。また，日中はトイレ誘導を中心に声かけや見守りを行い，できるだけトイレで排泄できるように支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々に水分摂取の勧めや、食事摂取量の把握と共に食事内容の変化や散歩などの声掛けを行っている。排便チェック表の利用で便秘の改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日入浴可能で、声掛けの時間を変更させたり、ゆったりと入浴できる時間も十分確保されている。好みにあった状態で入浴できるようにしている。	16時から夕食後の20時までを入浴時間とされています。入居者一人ひとりの身体状況や体調に合わせて、ゆったりと入浴できるよう柔軟に対応されています。また，入浴を好まない入居者には，無理強いすることなく，言葉かけやタイミングを工夫して入浴を楽しめるよう支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状況により、居室で臥床を勧めたり、希望されれば畳ユニットで臥床していただいている。夜間特に消灯、就寝時間も決まっておらず、休みたい時間までは職員が一緒に過ごし、お茶を勧めるなど個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診ノートに受診の経過を記入している。服薬の内容は一人ひとりのカルテに綴じており、確認することができる。内服準備者と提供者が別れており、処薬十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、洗濯干しなど家事を含め利用者のできることを見極め、負担なく参加し、楽しめるようレクリエーション 散歩、生け花、晩酌など個々に応じた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ゴミ捨て、買い物等外出の機会が毎日の日課にある。他に散歩などの希望も取り入れている。	朝のゴミ出しや買い物を日課とするなど、日常的に外出の機会が持てるようにされています。買い物を兼ねてドライブを楽しんだり、自宅を見に行ったり、外出が気晴らしにつながるよう支援されています。初詣や花見など季節ごとに外出行事の企画や、家族の協力を得て、一泊旅行や動物園、紅葉狩りなどにも出かけられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら金銭を持っておられる方はいないが、利用者個人の買い物の際は、家族よりの預かり金より支払っていると伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者には電話をかけることの援助や葉書の購入、投函などの支援も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のの小物を飾ったり、鉢植えを置くなど視覚的に安らぐ空間作りや、ホットカーペットなどを敷き、ゆったり過ごせる空間になるよう工夫をしている。	食堂兼リビングは広いスペースがあり、レクリエーションの場としても活用されています。自然光をカーテンで調節され、自然な光の中でリラックスできる居心地の良い空間となっています。各ユニットの玄関や廊下には、入居者の活けた花が飾られ来訪者を楽しませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方が隣り合って座るソファや座布団、藤の椅子などを準備し、日中皆さんで楽しく談笑したりテレビをゆっくり観たりできるように空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っておられたタンスや、親しみのあたる置物を持参していただくなど、利用者の状態によりご家族と相談し、より落ち着いた場になるよう工夫をしている。	タンスやテーブルなど、本人が愛用していた家具や置物等を持ち込んだり、テレビを置いたり、孫など家族の写真を飾ったり、一人ひとりが居心地良く暮らせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、廊下、浴室の手すりの設置など利用者一人ひとり安全に暮らせるよう工夫されている。又、居室名前プレートの位置や、目印など利用者が迷うことなく生活ができるよう支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		✓	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		✓	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		✓	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		✓	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		✓	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		✓	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		✓	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームの理念を玄関、事務所内に掲げ会議時、個々の理念への理解が深まるよう話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議の開催や、地域行事への参加、新聞の発行、来訪家族への話などにより理解が深まるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護教室への参加、認知症への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ご家族、地域の方、職員の参加で取り組んでいること、これから取り組むことなどを話し合い 出された意見を会議で報告し、サービスの向上に向けて活用している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町での研修等に積極的に参加、依頼を受けた介護教室で話しをするなど、市町との連携により質が向上されるよう取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止についての研修への参加、伝達講習、話し合いにより職員が理解しケアしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人としての勉強会への参加、外部研修への参加などたくさんの機会が持たれており、職員間での話し合い、勉強会で虐待に対する意識向上が話合われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体の勉強会への参加、外部研修への積極的な参加の勧めもあり、学ぶ機会も多く用意されている。また、御家族の依頼により助言等の支援もおこなわれている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、内容について十分説明させていただき、理解していただければ重要事項説明書に記名していただき、その後の疑問についてもその都度説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置や、職員と入居者のより良い人間関係を築き、苦情を言い易い場を作っていく意見を求め取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回グループホーム全体の会議と各ユニットの会議も月1回ずつ開催されており、出された意見について検討し、会議録に記入、全体に周知できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの概要、給与規定が開示され、職員個々の目標設定が分かりやすくなされている。又、研修案内などで広く勉強の機会を得ることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に研修参加が求められており、職員個々の研修参加希望、研修案内などで必要に応じた職員への声掛けがおこなわれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域での交流会へ参加し、交流を持ち、情報の共有や意見交換に努めサービス向上に役立てている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申し込み時に家族への聞き取りをはじめ、入居決定後に来居の機会を作り、ご本人の想いを受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期のグループホーム見学時から、ご本人の不安や家族の想いを受け止めるよう話を聞く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報収集を職員全体が共有し、入居に向けた対応を考え、必要であれば、医療機関、デイケアなどの利用、リハビリなども検討されるなどの対応がとられている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ゆったりした対話の時間を持つことで、入居者本人への理解をより深め、職員が生活の知恵を学ぶなど頼りになる人として接し、お互いを支えあう関係を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月発行のグループホーム新聞と共に、一人ひとりの1ヶ月の様子を担当者が記入し送付するなど、入居者の日々を感じていただく努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容室、歯科医院などの利用を取り入れ、一人ひとりの今までの生活を大事にした取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者間の人間関係を大事にし、外出等行事の際、隣の席に座るなど配慮している。入居者ご本人の状態についても他入居者に理解していただけるような声掛けを行い、関わりを持っていただけるような努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了時にも、相談等の来居を待っていると伝え、入居者の様子についても伺うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や思いを語ることが出来る時間や人間関係を作り、その人にとって何を必要としているかを職員が考えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者一人ひとりの情報がカルテに綴じてあり、職員誰もが見ることができ、また、新しい情報として得たことも個人日誌に記入され、職員間で共有されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	時経による個人日誌を生かし、入居者一人ひとりの1日の状態を職員が共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個人日誌やセンター方式でのアセスメントシートを利用し、家族の意見も聞き、カンファレンスや毎月の各ユニットでの会議で話し合いをし、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人日誌に声の掛け方やそれに対する反応を記入することとし、そのことでの対応職員の思い、反省を記入する事となっており、全ての職員が見ることもでき、それを基とした話し合いがされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	体調の変化や入居以前の情報により、他事業所のリハビリ利用やデイケア利用が行われている。 各事業所で行われる行事にも積極的に参加し、広い地域での関わりを持てるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を活用できるところまで地域に入り込めていない。 地域出身の方がおられるので、その方を中心にして地域への関わりを持っていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	グループホームとしてのかかりつけ医との連携とともに本来のかかりつけ医受診を希望されれば意向に添えるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度グループホーム担当看護師同席で往診があり、より細かな診断治療を受けることができる。 職場内の看護師には各ユニットの入居者の状態が把握できるような勤務体制を設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のための協力病院もあり、情報交換が行われている。出来る限り面会に行くなど起居後へ繋ぐ対応がとられている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期等希望は伺っているが、現状医療機関との連携の中ではっきりとした結論が出ていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者一人ひとりを知ることで、利用者にかかる事態に対応できるよう職員間での話し合いが持たれている。事故発生時のマニュアル作成や、訓練も行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練や連携施設との話し合いがされている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する礼を失わない声掛けや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とゆったりしたコミュニケーションを持つことで、利用者一人ひとりの思いを引き出し、理解できる声掛けをすることで利用者の理解や分かってもらえる満足感を持てる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活の中で日課に縛られることなく利用者の思いに添った外出や散歩、家事などの声掛けを行い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者と一緒に買い物に出かけ好まれる衣類を購入したり、起床時の衣類も本人の希望を伺いながら援助している。美容院も希望に応じ外部を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物と一緒にいき食べたいもの、季節を感じながら食材を決めたり、皮むきや野菜切り、調理、盛り付け、配膳、下膳などできることを手伝っていただけるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、無理なく満足した食事ができるよう努めている。食事おやつ時の水分摂取はもちろん、1回量が多量でない方は分散して勧めたり、夜間いつでも飲んでいただけるよう準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け行い洗面所で歯磨きをしていただいている。自力で出来ない利用者に対しては職員が誘導し口腔ケア行っている。義歯装着の利用者は曜日を決めポリデントにつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人日誌に排泄欄を設け、必要に応じて排泄パターン、習慣を職員共通の情報として支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々に水分摂取の勧めや、食事摂取量の把握と共に食事内容の変化や散歩などの声掛けを行っている。排便チェック表の利用で便秘の改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日入浴可能で、声掛けの時間を変更させたり、ゆったりと入浴できる時間も十分確保されている。好みにあった状態で入浴できるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状況により、居室で臥床を勧めたり、希望されれば畳ユニットで臥床していただいている。夜間特に消灯、就寝時間も決まっておらず、休みたい時間までは職員が一緒に過ごし、お茶を勧めるなど個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診ノートに受診の経過を記入している。服薬の内容は一人ひとりのカルテに綴っており、確認することができる。内服準備者と提供者が別れており、処薬十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、洗濯干しなど家事を含め利用者のできることを見極め、負担なく参加し、楽しめるようレクリエーション 散歩、生け花、晩酌など個々に応じた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ゴミ捨て、買い物等外出の機会が毎日の日課にある。他に散歩などの希望も取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら金銭を持っておられる方はいないが、利用者個人の買い物の際は、家族よりの預かり金より支払っていると伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者には電話をかけることの援助や葉書の購入、投函などの支援も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のの小物を飾ったり、鉢植えを置くなど視覚的に安らぐ空間作りや、ホットカーペットなどを敷き、ゆったり過ごせる空間になるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方が隣り合って座るソファや座布団、藤の椅子などを準備し、日中皆さんで楽しく談笑したりテレビをゆっくり観たりできるように空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っておられたタンスや、親しみのある置物を持参していただくなど、利用者の状態によりご家族と相談し、より落ち着ける場になるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、廊下、浴室の手すりの設置など利用者一人ひとり安全に暮らせるよう工夫されている。又、居室名前プレートの位置や、目印など利用者が迷うことなく生活ができるよう支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		✓	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		✓	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		✓	②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		✓	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		✓	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		✓	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		✓	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームわらえ

作成日 平成 24 年 5 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域包括支援センター以外の市担当者の参加がない。	市町との連携を綿密にする。	運営推進会議への参加をお願いすると共に、議事録を持参する。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。